

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491200012		
法人名	有限会社 スマイルリース		
事業所名	グループホーム 陽だまりの丘		
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233-1		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果市町村受理日	平成24年3月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは広々とした高台の平地に有り、周りには田畑が広がり農家の方々がタバコや季節の野菜を作っている為ホームに居ながらにして季節感を味わうことが出来る。収穫の時期になると農家の方が新鮮な野菜を届けてくれます。また、気候の良い日などは利用者様と散歩をしたり、近くの山でワラビやゼンマイなどを取り夕食に出したりもします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は、田園風景が広がり自然環境に恵まれている。散歩や窓から見える風景も季節感があり、五感の活用につながっている。家族参加の行事も多く、地域の人たちやボランティアの協力もあり交流を深める取組を行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、職員で唱和し理念を共有して実践につなげている。	玄関に全体の理念を掲示し、事業所内の事務所にはグループホームの理念を掲示している。朝礼の際に唱和する事で理念の意識付けを行い、実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小、中学校の運動会やマラソン大会などに出かけ応援をしている。また、地域ふれあい会を作り、定期的に児童館や保育園、こども神楽、ボランティアの方々との交流を図っている。	地域の会場を借り、クリスマス会を開催し、地域の方や子供達と交流をしたり、地域の行事にも参加をしている。ボランティアによる皿回しや踊りにも地域の方達に参加してもらったり、地域の草取りなどにも参加し地域貢献を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れの際には認知症について理解できるよう実践で学ばせるとともに、近隣の方々にも見学等通じて認知症について理解が得られるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広い方々の参加をいただきホームの行事、現状報告や経過報告を行いアドバイスをいただいている。それを基に利用者様へのケア、職員教育等に生かしている。	2ヶ月に一度開催し、1年に一度の割合で家族代表の交代をしている。事業所内での報告を行い、ねぎらいの言葉も聞かれる様になっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様が経口摂取が厳しい状態になりえる際、胃ろう注入の方の受け入れが可能かなど相談したり、市主催の会議で制度の説明や実情などを聞いている。	必要に応じて電話で相談している。支所の職員が毎月市報を届けてくれる際にも、質問や相談をしアドバイスをもらい、サービスの向上を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については件数を記入したり四本柵についても細心の注意を払っている。職員会議でも身体拘束についての研修を実施している。	法人全体の勉強会后、さらに事業所内で話し合いを行い、意識付けを行っている。一人夜勤の際に車いすやベットの転落防止の為に、本人・家族了承のもと、安全ベルトを着用し、見守れる時は外している。	以前に外に出ていく事例もあったため、玄関を施錠しているが、見守りを重視できているので、施錠をしないケアの取組に期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に言葉使いについては常日頃から職員間で気をつけている。(ちゃん付け等)また職員会議でも虐待防止の研修を実施している。		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を受けている職員は一部ではあるが、今後、研修発表会で全職員に周知徹底していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際に家族の方々等に契約内容をすべて読み上げ理解をいただいている。また不明な点はいつでも連絡いただけるよう信頼関係作りにも努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、ふれあい会や各行事に参加された際や面会時に利用者様のケアのあり方や要望などを伺い、密に連絡を取り合っている。	年に一度家族会を開催している。家族の行事参加や面会も多く、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。要望なども検討し、出来る限り反映できる様に取り組んでいる。家族会に参加できない家族や遠方の家族に対しては、事前に文書で連絡し、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々のケア、関わりについては朝礼や会議、日々の意見交換などで反映しているが職員の要望や待遇に関しては代表者に聞き入れてもらえない。	朝礼時に意見交換を行っている。職員からの要望で炬燵を設置した事例もある。他部署とも話し合いをし、代表者に伝え課題を改善し、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	評価基準がない為、やりがいに欠ける。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会などに参加させ内部研修会で報告している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市が主催するミニバレー大会に近隣施設の方と合同チームを作り参加しました。打ち上げの際、他施設の方とも情報交換等ができました。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談の際、要望などを本人のペースに合わせ聞くように努めるとともに、相手がリラックスできるような地域の話などを取り入れ穏やかに会話できるようにしている。	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と事前に話し合いができる機会を設け、ご家族の思いや利用者様の思いなどを聞きながら、何でも話せる関係づくりをしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族との十分な話し合いを行い本人により良い支援の見極め、他サービス利用の可能性も考えながら対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を敬い、ここで生活して行く中、いて欲しい存在という事を常々お伝えし、一緒に洗濯物をたたんだり、食事の準備等をしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に近況報告を月一度行っている。ご家族から電話がかかってきた際には必ず本人にも出させていただくようにしている。家族写真などを部屋に置き家族の絆を深めてもらっている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しんだ町に出かけ顔馴染みの方と会話を楽しまれたり、ご家族と自宅に行き畑の様子を見たり近所の方と会って安心されてホームに戻ってこられます。	通院の際に馴染みのスーパーに立ち寄り、顔見知りの方達と会ったり、昔からの行事見学や電話や手紙のやり取りも継続し、支援に努めている。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志が思いやりを持ち言葉少なに優しく会話されるのをよく見かけます。ときにはトラブルもありますが職員が間に入り緩和されます。	

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後や入院されている方に職員全員で干羽鶴を作りお見舞いに行っています。またお亡くなりになられた方の葬儀にも参列させてもらっています。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスなど日々の中での気づきを職員で共有し利用者様個々にゆったりと寄り添える時間を作り今の思いなどを把握できるよう耳を傾けている。	ゆっくり話す時間を作り、爪切りや洗濯依頼の要望が聞かれる事もある。対応時の反応や言葉をまとめて記録に残し、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族よりアセスメントをして尚かつ本人と関わりを持っていく中で知りえた情報を職員で共有し生活歴など加え記録として残すよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活する関わりの中で一人ひとりの様子を観察しプランに添って行えたかを個々にチェックし記録している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	最低でも三ヶ月に一回ケアカンファレンスを行い家族が参加できない場合は事前に要望等を聞き担当者を交えて行っている。	毎日計画が実践できているか記録し、見直しを行っている。毎月のモニタリングや3か月に一度の担当者会議などにも役立っている。家族へは事前に報告し、要望などを聞き、プランの反映に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録とは別に担当者が月一回、サービス月間援助計画をプランに添って作成し一ヶ月間取り組み、その結果を評価している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況、環境が多様化して支援の方法、あり方を思案すべき状態のときには、本人、ご家族の意向を聞き入れ医療機関に相談したり常に本人、ご家族の意見を尊重した対応を行っている。		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の改善センターを借りクリスマス会やふれあい会を実施し、子供達と一緒に踊りを楽しんだりしている。	
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医、ご家族の希望を優先し多少遠方でも受診している。また、利用者様の中には職員とご家族で受診もしている。	近隣の医院の応援体制もあり、かかりつけ医の受診同行や往診・時間外受診なども、家族の希望に沿って柔軟な対応をしている。家族と事業所の協力関係が築かれており、家族への報告も適宜行っている。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し健康管理や状態変化の兆し、経過観察等職員で共有し看護師の意見も仰ぎ適切な対応をしている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、面会に行き利用者様の状態を把握し主治医との情報交換に努めできる限り利用者様に負担を掛けないようにしている。	
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、契約時に利用者様、ご家族に説明します。指針のとおりには行かない場合もありますが適切な対処ができるよう努めている。	入居時に看取りについての文書を提示し、十分な話し合いを行っている。看取りはまだ経験していないが、今後は希望があれば家族と共有しながら行えるように取り組んでいる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回普通救命講習を消防本部の指導の元、実施しています。職員一人ひとり体験し、実践力につなげている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し職員、利用者様に避難経路等を説明している。また、地区消防団や青年団と協定は結んでいるが避難訓練への参加は困難である。	年6回避難訓練を実施し、うち2回は消防署立ち合いで行っている。地区の消防団とも「支援協力協定」を交わしているが、参加実施はしていない。今後は、地域の理解を深め、相互の訓練や「支援協力協定書」を有効に活用し、災害時の万全な対策を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには十分注意していますが、職員が人格や誇りを損ねる言葉掛けなどした場合はその場で注意をします。また職場会議でプライバシー保護の研修を行い周知徹底、意識向上を図っている。	研修に参加し事業所で伝達研修を行っている。課題がある場合はその都度注意し、具体的に伝える事で理解を得ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思表示が艱難な方に2選択してもらったり口には出せずとも、目線で選んだりしてもらっている。表情からも読み取るように心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて対応しているが、食事に関しては、共同生活ということを少し意識してもらい一緒に手を合わせたいだいでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を職員と選んだり行事の時には女性の方はメイクを楽しんでいます。また、2ヶ月に一回の理容日も皆様、楽しみにされています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の重度化にともない全員で準備や手伝いは困難であるが、フキの皮むきや干し柿作り、饅頭作りなど利用者様が出来る範囲で行っている。	一人ひとりの能力に応じ役割分担してもらい、生きがいに繋げている。食事介助者も多く、一緒に食事をする機会は少ないが、会話や雰囲気作りを心掛けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし毎日記録し摂取量が少ない時は栄養補助食品を活用し栄養バランスを壊さないよう努めている。嚥下状態等にも考慮し工夫して提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずブラシ又はスポンジブラシを用い、残歯、舌、内頬など口腔内をブラッシングし清潔保持に努め、誤嚥性肺炎の予防に努めている。		

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しおり、その時間帯に声掛けをし尿意が無くてもお誘いしている。利用者様の行動が落ち着かない時も声掛けをし本人が不快にならないよう支援している。	チェック表を元に誘導し、トイレでの排泄支援を実施している。夜間もポータブルトイレを設置している方もおり、出来る限り自立支援を目指している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事に繊維質の多い野菜を取り入れたり具沢山の味噌汁を毎日食べていただいている。歩行訓練等を重視し予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を重視し入浴している。入浴をより一層楽しんでいただく為に入浴剤やゆずなど使用している。また、意思表示が困難な方は体調を見ながら入浴するようにしている。	毎日入浴できる仕組みにしている。希望日がある方には曜日などを選んでもらっている。嫌がる方には声掛けの工夫や時間をずらすなどし、気持ちよく入ってもらえる様に配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう日中活動を取り入れたり食後に休憩される時は本人の希望の場所でくつろいで頂いている。寒い時期には居室での休憩を促している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように薬をお膳に準備した人、配膳した人、食事介助した人が確認し服薬後も下膳者が確認と4回チェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味を生かしホームで使用する、ぞうきんを作っていたり。とても助かりますと感謝しお互いに助け合っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせ散歩やドライブ、お墓参りに出かけている。地域の行事に参加したり劇団四季の見学にも出かけました。また畑での作業や収穫を楽しみにされてる方や毎朝、鶏の卵取りを欠かさず行く方もいます。	天気の良い日は事業所の周りを散歩し、外気に触れたり、駐車場にある鳥小屋に卵を取りに行ったりしている。希望があれば遠出をしたり、人により週一回はドライブに出かける事もある。出ない方に対しても月に一回は外出の機会を設けている。	

事業者名: グループホーム陽だまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理、所持されている方はいませんが、外出支援でお買い物される方にはホームが立替している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に電話を掛けたり手紙を出すことは自由です。定期的に来る手紙や電話を楽しみにしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がくつろぐリビングは吹き抜けがあり太陽の光が差し込み明るく開放感のある場所です。食事時になると調理場から味噌汁の匂いなど漂いとても家庭的です。	ホール内に畳のスペースを設け、炬燵を設置し、食後にくつろいだり日向ぼっこを楽しまれる方もいる。季節に応じた飾り付けをし、調査訪問時は雑飾りもあり、季節感を出していた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係を考えながらソファや畳の間に案内し気の合う方と話しが出来るよう支援している。一人になりたい方には、一人用のソファを用意し思い思いに過ごしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や仏壇、家族写真など自由に置けるようにしている。誕生日会や行事での写真も貼り孤独を感じさせないよう努めている。	一人ひとりに合わせた居室づくりを心掛けている。身体レベルに合わせて家具の配置を工夫したり、和室に布団を敷いて対応するなど、居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間、ポータブルトイレを使用される方のベットに補助バーを付け安心、安全に生活出来るよう工夫している。浴室では個々にあわせ手摺りを移動されるようしている。		